内旋位を採るのは此の蝶鉸に働く所の強力なる横杆の牽引によつてなされる。即ち此の横杆の延長又は短縮せしめることにより内旋位が強度又は軽度採られることになるのである。

因に兩側性股關節脱臼でランゲ氏法による固定を副木を使用して行ふ必要がある場合には述者はゴット氏兩側性内旋位副木を使用するを謂ふ。

(野崎抄)

會陰彎曲を有する新産科鉗子

Von Kurt Nordmeyer 述(Zbl. Gynäk. Nr. 49, 1936)

産科鉗子術特に兒頭を骨盤底に向つて牽引する場合、後陰脣連合が不必要に非生理的に過度擴張を起して損傷されることが多い。會陰の擴張は自然分娩時の如く、先行兒頭によつてなされるのではなく、鉗子葉によつて行はれ、従つて後脣入口部のみに限局される。この事實を見て吾々は、この缺點を矯正するために會陰彎曲を具ふる一つの器械を作成しようと考えた。

會陰彎曲の考は産科鉗子の歴史には散見する。例之Bradtmoellerの „Die Geschichte der Geburtshilfschen Zangen u. Hebel“ に云ふ著述を見ても、Göttingen 婦人科教室で殆んど遺漏なく調査した鉗子を通覧しても認められる。

一八六九年、英國の産科醫 R. W. Johnson が、それまでの凡ゆる基礎を考慮して一つの鉗子を發表した。これを Smellie 並に

Levet の鉗子との差異は彎曲を有することであり、而もその最初のものであつた。オランダの W. Sleurs 及 Edinbaurgh の教授 Th. Young. は彼等の鉗子に Johnson の彎曲を使用してゐる。オランダの産科醫 J. Mulder は一七九四年に「産科鉗子の歴史」を著し、その終りに會陰彎曲を有する一鉗子を記載し、これはそれまでの鉗子のもつ特長と缺點を考慮すれば、誰でも優位と認めるに違ひないを述べた。

其の後數年にして發表された Eckhardt の鉗子も同様である。近年になつて Aveling の鉗子が知られてゐるが、使用に臨んで満足は云へなかつた。

吾々の會陰彎曲を有する鉗子を述べるに當り、在來の Naegle の鉗子の標準と比較するに、Naegle 鉗子は長さ四十糎、匙部の長さは接合部までが二十五糎、最大頭部彎曲は九糎、鉗子端の距離は一糎半なつてゐる。これに對して吾々の鉗子は僅に、三十糎半の長さで、連合部までが十八糎半に過ぎない。匙部と柄部との比は三對二で最大頭部彎曲は八糎、鉗子端距離は三糎である。斯る大さの差異は頭部彎曲の後方に於て、直接に鉗子匙を強く縮小

することによつて生じたのである。これによつて兒頭ミ鉗子柄ミの間に餘分の間隙がなくなり、此部表面は全體ミして兒頭に接近する。Naegelの鉗子では、産科醫の手は兒頭から少し離れて居るのに、余の鉗子では手は兒頭ミ連つてゐる。

會陰彎曲は接合部が鉗子端ミ略々同じ高さに作られてゐることによつて生じてゐる。そのためには柄部は幾らか弓形であらねばならぬ。そのこが却て便利で而も確かに握み易い。

鉗子の插入は生理的彎曲ミ、兒頭に最も適合することにより樂に插入出来る。下方への牽引に際しては、唯兒頭によつてのみ會陰が擴張される。

Naegelの鉗子では、兒頭ミ産科醫の手ミの間の距離によつて、横杆作用が生ずるが、吾々の鉗子ではこの作用は起らない。兒頭を外へ引き上げるのである。

それは手術の凡ての時期に於て、自然分娩經過ミ最も類似した經過をこらせる。

この鉗子の使用範圍は、形狀が下部骨盤面に一致してゐるので、骨盤中央部ミ骨盤出口の鉗子に制限されてゐる。この鉗子を自分ミは手術に際して好んで使用して見た結果、吾人醫師の助産が益々愛護的に行はれるやうに努力するためには、この器械を推奨するのが正しいミ認めた。(發賣者。Mahrt u. Hoering, Göttingen)

(久村抄)

氣胸治療用針

Dr. David A. Heri (Liverpool) 述 (Brit. med. J. No. 3962, p. 1200, 1936)

特發性氣胸の治療或は肋膜腔洗滌法等に際して針が確實に胸壁で固定されること云ふことは頗る望ましいことである。即ち呼吸運動及び筋肉の收縮等により針は外側へズレ勝ちであるから、終には皮膚外へ脱出する惧がある。此の缺點は僅かの彎曲度を有する小金屬板で、その外側に治療用針をその中央の小孔を通して支持固

定する臺をつけてある所の小器械により全く補はれることになつた。針はその支持臺で彈撥により漸時的に或は恒久的に固定される様になつて居る。此の針止は胸壁に絆創膏片で圖示の如く固定する。著者は最近特發性氣胸の治療に際し、此の針に「バルブ」装置を施し九十六時間肋膜腔に故障なく裝著固定することが出来たこと云ふ。製造所。Messers. Down Bros. Ltd., London.

(野崎抄)